

都市計画道路を考える 小金井市民の会

第 52 号 2020 年 8 月 6 日
発行都市計画道路を考える
小金井市民の会
連絡先 電話 090-7847-3968

3・4・11号線オープンハウスでの アンケートと東京都の考え方が公表

2月におこなわれた3・4・11号線に関するオープンハウスで、市民からだされた質問とそれに対する東京都の考え方が、北多摩南部建設事務所のホームページで公表されました。全体で28ページになるので、その一部を紹介します。(詳しくは北多摩南部建設事務所のホームページを参照してください。)

アンケート回答者の
内訳

		人数	構成比
全体		417人	—
年齢	10代	8人	2%
	20代	15人	4%
	30代	39人	9%
	40代	81人	19%
	50代	101人	24%
	60代	71人	17%
	70代以上	93人	22%
	未回答	9人	2%
お住い	小金井市内	355人	85%
	府中市内	12人	3%
	それ以外	30人	7%
	未回答	20人	5%
通勤 通学先	小金井市内	49人	12%
	府中市内	5人	1%
	それ以外	111人	27%
	未回答	252人	60%

意見の概要	東京都の考え方・対応
<p>○都市計画道路の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 人口や車の台数が減少する中、多くの費用を費やし、自然や住民を犠牲にしてまで50年以上前の道路計画を進めるの必要性を感じない。直ちに中止すべき。 □ 道路整備の必要性や建設可否について議論し、計画の見直しや再検討をするべき。 □ 南北方向の幹線道路が不足しており、地元に住んでいてとても不便を感じている。 □ 道路が必要なのであれば、公園内に道路を通すのではなく、今ある道路の拡幅や交差点改良、交通規制、無電柱化等で対応できないか。 □ 計画が中止になることや見直されることはないのか。どうしたら止められるのか。 □ 将来、人口が減少する中、道路整備に税金を使うより、高齢者対策や少子化対策に支出する方がはるかに効果的ではないか。 □ 道路の必要性について、都市整備局から 	<p>人口減少の時代にあっても、将来にわたり東京を持続的に発展させていくためには、広域的な交流、連携や高度な防災都市などを支える都市計画道路ネットワークの充実が不可欠であり、必要な道路は着実に整備していきます。なお、第四次事業化計画の策定にあたって予測した将来交通量は、広く一般に用いられている予測手法を活用し、将来の人口配置や経済の動向などが考慮されています。本路線は、甲州街道から五日市街道に至る南北方向の広域的な道路ネットワークを形成する道路です。現在、本路線が接続する前後の道路は、完成または事業中であり、当該区間のみが未整備となっています。</p> <p>天文台通りと小金井街道の間は、約3.6kmであり、南北方向の都市計画道路が十分整備されていないことから、小金井街道や新小金井街道で渋滞が発生しています。さらに、連</p>

<p>の説明や意見交換の機会を求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 反対意見ばかり注目されているが、賛成の意見があることも重視してほしい。 □ 大規模防災拠点の小金井公園と武蔵野公園を結ぶ必要性が分からない。既存の道で避難できる。 □ 3・4・1（3・4・11）昭和37年7月26日の建設省告示（1773）が都の事業化の「根拠」となっている。この告示の裏付けとなる河野一郎建設大臣の署名（花押）のある決定文書を示してほしい。 	<p>雀通りの南側の生活道路である二枚橋の坂（市道573号線）に通過交通が入り込み、他の地域からの通過車両が歩行者、自転車と交錯しながら通り抜けており、狭隘な生活道路における交通の難所となっています。このため、小金井市では連雀通りからの進入を制限するために朝の通学時間帯及び午後から夕方までの時間に交通誘導員を配置するなど、交通安全対策を余儀なくされています。</p> <p>本路線は、国が都市計画決定し、告示されており、当時の法令に基づき、適切に手続きがされたものと認識しています。</p>
<p>○事業に対する不安</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 市民の合意がないまま、都が一方向的に計画を進めることへの不安がある。 □ 道路整備には不安しか感じない。 □ 五日市街道の交差部がボトルネックになり南北の交通量緩和に繋がらないと思う。 □ 交通渋滞や生活道路への通過車両流入は幹線道路で必ずしも解消しない。逆にひどくなることもある。 □ 道路整備で防災力が向上するという考え方は本当に正しいのか。コミュニティが分断され、地域住民のつながりをもろくする恐れがあると思う。 □ 計画地周辺から野川、新小金井周辺は保育所が多く、日々の散歩に野川周辺へ出ることが多い。園児の散歩列に車両がつかみ死亡事故に至った例はいくつもあり、この道路にはそういった面でも不安を感じる。 	<p>東京都では、本路線の整備にあたり、これまでも、沿道の自治会代表者や公募による市民の皆様との意見交換会やその内容を広く情報提供するための説明会を開催しました。また、本路線については、様々なご意見等が寄せられていることから、より多くの市民の皆様からも広くご意見、ご質問等を伺わせていただくオープンハウスを開催させていただきました。</p> <p>延焼遮断帯は沿道に位置する建築物の防災性能や阪神淡路大震災での焼け止まり状況を考慮した上で設定しており、延焼遮断機能に加え、緊急車両の通行路や消防活動等の救助・救護活動の空間や安全な避難路の確保など、大変重要な役割を担っています。道路構造や幅員構成、横断歩道、信号の位置などは、現地の状況や通学路なども考慮して、今後、交通管理者である警察と協議の上、決定していきます。</p>
<p>○周辺環境に関する情報</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 野川周辺には植物や渡り鳥など多様な生態系や豊かな自然環境がある。 □ はけの湧水のところにはホタルが生息している。 □ 沢にはカニがいて、野川にはアユが遡上する。ICUの森では、オオタカが毎年、営巣している。 □ 国分寺崖線の緑地は生態系にとって極めて重要。アナグマやホンドタヌキなどの希 	<p>「河川水辺の国勢調査」等によると、本路線周辺の緑地や野川の水辺等には、貴重な動植物が生息・生育している可能性があります。また、第四次事業化計画を策定する際に実施したパブリックコメントでいただいたご意見、ご提案においても、本路線については、国分寺崖線（はけ）や野川自然再生事業との関係など、自然環境や景観に対する影響を懸念する意見などをいただいております。今</p>

<p>少な生物が生息している。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 絶滅危惧種のコサギ、ダイサギ、アオサギ、カワセミ、川鶺などを保全してほしい。 □ 東京では珍しい玉虫やキツツキ類、ハクビシン、テング蝶等の昆虫が毎年見つかる。 □ 現地は自然再生事業実施地域であり、都や市民団体が過去 10 年以上に及ぶ情報を持っている。 	<p>後、地質や地下水、動植物などの環境調査を行い、必要な保全対策の検討を行うなど、自然環境や景観に配慮しながら検討していきたいと考えています。</p>
<p>○自然環境等の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 小金井に残る自然や原風景、静かな住環境、子供の遊び場を壊さないでほしい。 □ はけなど、東京の貴重な自然、住民の生活環境を壊す道路計画は反対。環境と道路は両立しない。自然は一度壊したら元に戻らない。計画を再検討すべき。 □ 都は環境保全や排気、騒音等の対策をどう考えているのか。 □ 野川や武蔵野公園の生態系や美しい自然に影響がないように配慮してほしい。 □ 道路整備が湧水や地下水、動植物などの生態系に与える影響を調査し、貴重な動植物が見つかった時には現場を保存してほしい。 □ 都は自然再生事業で守ってきた環境を自ら壊すのか。 □ 橋脚の杭により地下水の流れが変わらないのか心配。野川の水は動植物に大きく影響する。 	<p>「河川水辺の国勢調査」等によると、本路線周辺の緑地や野川の水辺等には、貴重な動植物が生息・生育している可能性があります。また、第四次事業化計画を策定する際に実施したパブリックコメントでいただいたご意見、提案においても、本路線につきましては、国分寺崖線（はけ）や野川自然再生事業との関係など、自然環境や景観に対する影響を懸念するご意見などをいただいております。会場に展示した模型等の道路や橋梁の構造は決定したものではありません。今後、地質や地下水、動植物などの環境調査を行い、必要な保全対策の検討を行うなど、自然環境や景観に配慮しながら検討していきたいと考えています。また、調査結果については、今後のオープンハウスなどで公表する予定です。</p>
<p>○防災性、安全性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 連雀通りなどの無電柱化も進めてほしい。 □ 3・4・11 の沿道は延焼を防げるかもしれないが、延焼遮断帯の内側では細街路しかないため、燃え広がってしまうのではないか。 □ 3・4・11 のすぐ東側には西武多摩川線があり、その両側には道路もある。既に延焼遮断帯としての機能を有しているのではないか。 □ 震災時の避難路不足について、阪神淡路大震災の例を示しているが、条件が小金井 	<p>「防災都市づくり推進計画」（平成 28 年 3 月）において、木造住宅密集地域が連なる地域を中心とした 23 区及び多摩地域の 7 市（武蔵野市、三鷹市、府中市、調布市、小金井市、西東京市及び狛江市）を対象に、「骨格防災軸」「主要延焼遮断帯」「一般延焼遮断帯」から成る延焼遮断帯を設けています。このことから、これら延焼遮断帯として位置付けられている都市計画道路は、安全・安心な都市の実現に向け今後も必要であると評価しています。</p> <p>阪神淡路大震災において、幅員 8～10m 以</p>

<p>市にも当てはまるのか。</p> <p>□ 糸魚川の大火の検証は行っているのか。検証結果を取り入れて計画を見直すべき。</p>	<p>上の道路になると、沿道の建物が倒壊しても車両の通行が可能であったということが分かっています。</p>
<p>○その他</p> <p>□ 西武多摩川線の上に道路を通すことや相乗りについて検討してほしい。</p> <p>□ 小池都知事に現地を視察してほしい。</p> <p>□ 活発な都市活動というのはインフラ整備だけではなく、ソフト面の整備が重要。</p> <p>□ 既に完成している東大通りを建設する際に、地権者や沿道住民に対してどのように対応したのか。</p> <p>□ 小金井市長も賛成していない現状や要望書をどう考えているのか。</p>	<p>小金井市長からは、令和2年5月にも要望書が提出されており、その要望内容は、本路線について、引き続き丁寧な対応と周知を行うとともに、小金井市長が了解できない状況下での事業化を進めないこと、都市計画マスタープランの立場を尊重し小金井3・4・1号線を見直すこと、小金井市が実施したアンケート結果を踏まえ丁寧な説明を行うこと、市民との意見交換の機会を継続するとともにオープンハウスの結果を踏まえ運営方法について工夫すること、知事の現場視察を要望すると記載されています。</p>

<前回以降の活動経過>

7月9日 第51回世話人会

7月9日 小金井市第2回都市計画マスタープラン策定委員会傍聴

7月30日 3・4・11住民の会世話人会

<今後の日程>

9月3日 第53回世話人会 17時

<裁判などの日程>

8月18日 晴海選手村土地投げ売り裁判 14時 103号法廷

9月7日 青梅街道インター訴訟 11時 103号法廷

9月9日 東京外環道訴訟 14時 103号法廷

新型コロナウイルス対応のため傍聴席は通常の3分の1(36席)となります

★2020道路全国連全国交流集会は中止となりました。

秋に国分寺の東京経済大学で予定していた交流集会は新型コロナウイルスの感染状況に鑑み中止となりました。